

令和7年度 北九州市 英語教育改善プラン

グローバル社会で活躍し、北九州市と世界の架け橋となる人材の育成

目標

- 授業における、児童の英語による言語活動の充実
- 小学校1・2年生からの9年間をととした北九州市型外国語教育の実施

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンス含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「英語の勉強が好きか」について、肯定的回答が増加
(R5:66.7%⇒R6:68.4%)
- ②同じく「英語の勉強は大切だと思うか」について、肯定的回答が増加
(R5:89.3%⇒R6:91.8%)

未だ改善が必要な点

- ①パフォーマンスタイムの実施について、ALT等との一対一のやり取りや発表などの活動が少ない場合が見られる。
- ②GIGA端末の活用の仕方について、言語活動の充実に寄与するものとする必要がある。

2. 要因分析

- ①北九州市型外国語教育（小中の9年間をととした指導）についての研修会を全小中学校管理職等を対象に実施、外国語教育に関する支援訪問（E授業支援訪問）を実施したことによる授業改善
- ②北九州市型外国語教育の先行実施により、児童の興味を引き出す言語活動が増えたことによる授業改善

- ①パフォーマンスタイムの効果的な実施形態について、教員の理解は進んだが、現時点では教材の準備や方法の浸透などに課題があると考えられる。
- ②GIGA端末を授業において、児童が選択して使うことにより、既習事項から粘り強く考えることができていない場合があるのではないかと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「北九州市型外国語教育」の推進

小学校低学年からの9年間をととした外国語教育

小中で一貫した目標をもち、小中の教員が互いに連携し、それぞれの段階で適切な目標をもって指導にあたる

- 英語を学ぶことにワクワクし、自分から取り組む児童（英語大好きキッズ）を育成する
- 児童が自分の考えや気持ちを英語で表現するアウトプットの場面をこれまで以上に充実させる

↓そのために、

「北九州市型外国語教育」を推進する

- 特徴 1 小学校低学年からの英語体験活動「英語大好きタイム」
 2 中学年での「ファンタイム」、高学年での「パフォーマンスタイム」
 3 各段階における工夫した言語活動の充実
 4 小中連携・接続を意識した授業「つながりタイム」

①②「北九州市型外国語教育ハンドブック」の活用

「北九州市型外国語教育ハンドブック」を活用した言語活動の充実のため、外国語科主任研修・訪問授業・公開授業研究会等を実施

- ・言語活動での適切なGIGA端末の活用についての周知
- ・英検ESGの希望校実施による指導の改善
- ・中学校から小学校へ専科教員の配置
- ・ALTの効果的な活用と授業への参画

令和7年度 北九州市 英語教育改善プラン

目標

グローバル社会で活躍し、北九州市と世界の架け橋となる人材の育成

- CEFR A1レベル以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 R6 48.4% → R7 50.0%以上を目指す
- 授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合の増加及び質の向上（R5 参考 66.7%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力の状況が改善している。

（R5:48.3%⇒R6:48.4%）

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、授業改善が進んでいる様子が見られる。例）自分の考えや気持ちを即興で伝え合う活動

（R5:70.8%⇒R6:75.4%）

未だ改善が必要な点

①同じく質問調査の結果から、まとまった内容を英語で発表する活動の実施について、改善はしているものの未だ課題がある。

（R5:71.3%⇒R6:76.7%）

2. 要因分析

①北九州市型外国語教育（小中の9年間をととした指導）についての研修会を全小中学校管理職等を対象に実施、外国語教育に関する支援訪問（E授業支援訪問）を実施したことにより授業が改善した。

②北九州市型外国語教育の先行実施により、言語活動の内容と割合が改善した。

①即興的なやり取りについては、帯活動などでの実施が浸透しているが、まとまった内容を英語で発表するなど話す内容を整理するなど準備して話す活動について消極的な教員もみられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「北九州市型外国語教育」の推進

小学校低学年からの9年間をととした外国語教育

小中で一貫した目標をもち、小中の教員が互いに連携し、それぞれの段階で適切な目標をもって指導にあたる

- 英語を学ぶことにワクワクし、自分から取り組む児童（英語大好きキッズ）を育成する
- 生徒が自分の考えや気持ちを英語で表現するアウトプットの場面をこれまで以上に充実させる

↓そのために、

「北九州市型外国語教育」を推進する

特徴 1 小学校低学年からの指導「英語大好きタイム」

2 小中連携・接続を意識した授業「つながりタイム」

3 毎単元後に実施するパフォーマンステストとフィードバック

②「北九州市型外国語教育ハンドブック」の活用

「北九州市型外国語教育ハンドブック」を活用した言語活動の充実のため、外国語科主任研修・訪問授業・公開授業研究会等を実施

- ・言語活動での適切なGIGA端末の活用について周知
- ・英検IBAによる学習状況把握と学習改善・指導改善
- ・GTECの一部実施（中学2年）による学習状況の分析と市全体に向けた指導改善の検討
- ・「AIの活用による英語教育強化事業」での生成AIの活用

令和 7 年度 北九州市 英語教育改善プラン

グローバル社会で活躍し、北九州市と世界の架け橋となる人材の育成

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合50%を目指す
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合15%を目指す

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ① CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加している。
(市立高は一校のみのため割合は 非公開)
- ② GIGA端末（学習者用デジタル教科書や教材）の活用状況が改善している。
(R6 学習者用デジタル教科書の活用75%以上の授業で実施)
- ① 言語活動時間の割合や内容について、引き続き改善する必要がある。
- ② オンラインを活用した交流について改善の必要がある。(R6 実施なし)

2. 要因分析

- ① 福岡県主催の研修、本市指導主事の訪問・指導助言、北九州市型外国語教育研修等を通じて、指導の改善や中高連携が行われたことにより改善したと考えられる。探究学習支援アドバイザーの指導助言により授業改善が進んだことも要因と考えられる。
- ② 外国語科に限らず学校全体でのICTの活用状況が改善していることが影響していると考えられる。
- ① 言語活動時間の割合について、教員や学年によって多少のばらつきが見られる。
- ② オンライン交流先の選定の難しさがある。交流の対象となる生徒や、英語に堪能な方などの確保に課題がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 「北九州市型外国語教育」の推進
小学校低学年からの9年間をととした外国語教育
 - 英語を学ぶことにワクワクし、自分から取り組む生徒を育成する
 - 生徒が自分の考えや気持ちを英語で表現するアウトプットの場面をこれまで以上に充実させる↓そのために、
「北九州市型外国語教育」を推進する
◇令和7年度 市内全小中学校で実施
現在高等学校では北九州市型外国語教育のハンドブックの活用はしていないが、長期的目標として高等学校も含めたカリキュラムを作成していくことを検討している（アウトプット重視の指導を推進）
- ② 研修の機会の充実
 - ・外国語教育リーディングスクール公開授業研究会（北九州市型外国語教育ハンドブックを活用した授業改善）への高校教員の参加を促進
 - ・福岡県外国語指導助手（JET-ALT）の指導力向上研修への参加促進
 - ・指導主事、探究学習支援アドバイザーの訪問や指導助言
- ② 市内の小中学校との連携を図る
(教員同士の情報交換、児童生徒の交流活動、12年間で育む英語によるコミュニケーションの資質・能力の共有)

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

北九州市教育委員会

北九州市教育委員会管轄の高等学校は1校のみのため、一部非公表としています。

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)										
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)										
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	75.0	75	55.6	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	75.0	100	77.8	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	0		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	100	100	100	100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	75.0	100	55.6	100		100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	48.3	50	48.4	50		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	66.7	75		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	77.4	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	93.5		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	87.1		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	45	42.6	45	36.4	45		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	63.8	70		75		80		85	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	60	64.3	70		100	100		100	
		公表(%)	30	32.5	40		100	100		100	
		達成状況の把握(%)	60	57.1	70		100	100		100	